



★ みんな かがやく ★ 共に生きるために

第4号 2021年7月16日

塩崎 房美

7月になり、園の入り口には子どもたちが作ったたくさんの七夕飾りで彩られた立派な笹が飾ってあります。お家には、子どもたち一人ひとりの願い事を書いた短冊を飾った笹を持ち帰っていましたね。昔、「裁縫がうまくなりたい」「楽器が弾けるようになりたい」といった芸事や習い事の上達を祈願したのが短冊の起源と言われていますが、子どもたちの「たくさん〇〇して遊びたい」「〇〇ジャーになりたい」などかわいい願い事でいっぱいでした。残念ながら今年は7日に天の川を見ることは出来ませんでした。旧暦では8月14日が「たなばたさま」です。晴れた夜空に天の川が見えるといいですね。そして、みんなの願いがかないますように……



今回は、インクルーシブ保育を研究されている松井剛太先生(香川大学)のおはなしをご紹介します。

多様な子どもたちの学びと保育 『こんなのあるよ』

ある園を訪問したとき、「カイツカイブキ」という木に登っている4歳の男の子がいました。「その木に登ったら危ないよ」という保育者にはお構いなしで、生い茂った枝の内側に入り込んでいきます。すると、「トゲトゲの葉っぱがあるよ!」と聞こえてきました。カイツカイブキというと、フワフワした柔らかい手触りの葉っぱのイメージがありますし、外から見てもトゲトゲの葉っぱは見当たりません。そこで、この男の子と同じように木の内側に入ってみると、確かに一部トゲトゲになっている葉っぱを確認できました。



雑に扱うと、こうしたチクチクの葉が生じる

「よく見つけたね」というと「とれるかな?」と言いながら、恐る恐る手を出して取りました。すると、他の子どもたちが「何があったの!」と関心を持って自然と集まってきます。集まった子どもたちも、その葉っぱがあったところを見上げて目を大きくし、一人の発見がみんなの驚きを呼び込んだのです。

そんな周囲の反応はさておき、当の本人の関心はもう次の「この葉っぱを水に浸けておいたら柔らかくなって膨らむだろうか?」に移っていました。適度な大きさのカップに水を入れて浸けました。「また何か面白いことを始めたぞ」と再びみんなが集まってきます。

大人から見ると、困ったところがあるものの、目の付け所や発想がとてもユニークな男の子です。しかし、子どもたちは、「大人の予想を超えるような面白い子ども」に強い関心を寄せて、学びを深めていきます。

『みんな平等でなくてはならない=みんな同じことをしなければならない』という図式だと、子どもたちの多様性が活かされません。平等とは、一人ひとりの心の充実を同じくすることだと思えます。

『キリスト教保育 2020年5月号』p.37

めぐみ幼稚園でも、子どもたちが違う感じ方をしていても、違う考え方をしている、遊びを通してお互い学び合い、降園時には「あ～、今日もたのしかった」と一人ひとりが充実している、そんな園生活を目指していきたいと願っています。